



国民健康保険被保険者証の  
カード化について

平木 一朗 議員

**問** 国民健康保険法施行規則の改正により被保険者証の個人カード化（世帯に一枚から家族一人一枚）を実施することとされている。現在、市町村の多数がカード化される中、本市は近隣をみても遅れていると感じるが、今後のカード化実現の対応を伺いたい。

**答** カード化は、25年12月ごろに電算システムのクラウド化など、基幹システムの更新を予定しており、その段階で導入したい。

**問** 高齢受給者証も利便性と経費削減を図り、個人カードと一本化し、様々な機能を載せる使い勝手のよいカードにできないか、また、電算システムのクラウド化の進め方について伺いたい。

**答** 被保険者証と高齢受給者証との一本化は、基本的には実施を想定しているが、現在、高齢者医療の患者負担部分が国の政策の変動で安定性を欠いており、政策の安定性を見極めて一本化したい。またクラウド化は、北部九州情報化推進協議会が立ち上がり、現在六自治体で検討を進めている。共同化により経費削減が図られ、能力の高いシステムに移行することで、必要に応じて色々な機能をカードに搭載することも可能になると思う。



地域（コミュニティ）  
活動について

水落 常志 議員

**問** 地域活性化をどのように考えているか伺いたい。

**答** 本市における住民の地域活動は他市町村に比べ何ら遜色もなく、行政区やコミュニティ協議会もその機能を十分果たしているが、少子・高齢化の進展などを考えると、今後、行政として何らかの取り組みが必要と思われる。本市としては、どのようなシステムが望ましいか、本市の地域特性を踏まえ、先進事例も参考に調査・研究を進めたい。

**問** 地域として行っていかねければいけないこと、また、地域のあるべき姿について、伺いたい。

**答** まちづくりは、地域が自主的に創意工夫をもって、その地域にフィットした様々な事業を行うというもので、その一つの母体がコミュニティ協議会、区長、公民館長を中心とした団体である。そこから出る地域に応じた様々なまちづくりのアイデアを、是非実施に向け取り組んでいただきたい。行政は必要に応じて支援するという役割分担がまちづくりには一番重要だと思う。地域の発意で、地域の知恵でまちづくりを進めていただく、これがとても重要なことだと考える。



国際交流（姉妹都市）を  
満たすには  
社会情勢と学校教育について

川野栄美子 議員

**問** イタリアのポルデノーネ市との姉妹都市25周年の記念事業は考えているか。

**答** 12月18日から1月10日まで、小中学生の絵画交流展を市文化センターで開催する。

**問** 国際交流を満たす取り組みを伺いたい。

**答** 姉妹都市提携から25年という時を経てバブル期であった当時からすれば、国際経済情勢を含めた本市を取り巻く事情は大きく異なってきた。今後も互いに木工産業を基幹産業とする家具のまちとして、異なる文化や、価値観の相互理解を深めるとともに、民間レベルの支援も含め、多様な交流を検討したい。

**問** 社会情勢と学校教育について伺いたい。

**答** 社会全体の情勢変化は少子・高齢化、国際化、情報化、科学技術の発展等が、また、家庭では家庭教育力の低下等が、地域社会では地域の結集力、教育力の低下等が、子供達の現状では基本的な生活習慣の欠如や学ぶ意欲の低下等が見られる。これを踏まえ、社会の激しい変化を生き抜くための大川市教育振興プログラムを策定し、教育の推進を図っている。この推進に当たり、学びと発達の連続性、保幼小中の縦の連携と、家庭、学校、地域社会の横の連携を大切にして推進している。